

私にとって、初めての海外となった今回の研修であるが、今こうして研修を終えてみて、非常に有意義なものになったと思うし、楽しかったというのが率直な感想である。

まず中国・北京に降り立ってみて思ったことは、「空が黄色いなあ…」ということである。これに関しては北京にいるうちに慣れてしまったが、結局、北京市内にいる間は、研修の最後まで太陽を見ることはなかった。そんなスモッグで覆われた北京の空を見ながら、空港から人民大学までバスで向かったわけであるが、大学に降り立ってみて驚いた。大きすぎる。一体どこからどこまでが大学なのかわからないほどの規模を目の当たりにして、「なんだか町みたいだなあ…」という誰かのつぶやきに心の中でうなずいた。大学内のホテルは想像以上にしっかりしていて、なおかつ部屋のトイレがきれいだったので安堵した。中国のトイレ事情は出発前から耳に聒聒ができるほど聞いていたからである。その日の夕食は、初めて食べる異国の食事にまだ体が慣れなかったからか、少し私の口には合わなかった。その後は次の日の発表に備えて準備をし、中国での初めての眠りについた。

次の日は、午前中大学構内の見学をしたのち、発表をするといった流れだった。大学構内の見学では「これが海外の大学か、規模が違うなあ…」と感嘆しきりであった。そしていよいよ発表となったわけであるが、正直なところ、うまくいった場面の方が少ないような気がする。時間もずいぶん押しだし、言いたいことがまとまっていなかったように感じた。そう思う大きな要因としては、人民大学の皆さんの発表を受けたことがあると思う。非常にしっかりした発表で、おそらく通訳がなくとも、論理的でまとまった発表であることがわかるような内容であった。そうして人民大学との歴然としたプレゼン能力の差を見せつけられた後、盛大な歓迎会を開いてもらい、その日は眠った。

その後の二日間では、人民大学の学生の皆さんと一緒に中国の農村を見学したり、かねてから行きたいと思っていた万里の長城や天安門広場を観光したりと、非常に楽しく活動をすることができた。特に万里の長城を上った上から見る景色は非常にきれいで、思い出に残っている。また、天安門広場に関しても、「よく TV で見るあの毛沢東の写真が目の前にある！」と興奮しきりであったし、また、北京市中心部の繁華街に出向いた時も、人の多さに驚いた。これは研修を通して思ったことなのであるが、中国では日本に比べて車のクラクションを鳴らすのに抵抗がないのだろうか。外に出るといつも聞いていたような気がする。また、中国の特色といった点でいうと、大学構内で卓球が盛んなのは想像通りだったが、バスケットボールも盛んであるのには少し驚いた。そして何よりも、サッカー好きの私としては、大学構内にあれほど立派なサッカー場がいくつもあるのに、実際にサッカーをしている人に全く会わなかったのは非常にショッキングであった。

そうして5日間を終え、書いていくときりがないほどの新鮮味を味わって中国を後にしたわけであるが、冒頭で述べたように、今は満足感でいっぱいである。また、全員が無事故で何事もなく帰ってくることもできたのが一番良かったように思う。



写真 万里の長城から見えた景色